

神山町創生戦略

まちを将来世代につなぐプロジェクト 第3期 [2026-2030]

山々に囲まれ、鮎喰川とともに
人々の生活が続いてきたこのまちで、
これから先も健やかに生きていけるよう。



つなプロは、第3期へ

みなさんは、このまちでどのように暮らしていきたいですか。どんな風景を未来に残していきたいですか。

まちを将来世代につなぐプロジェクト（通称つなプロ）は、この先を生きる世代に向けた取り組みです。今の時代を生きる人々の思いと行動の積み重ねが、まちのこれからを形づくっていきます。

つなプロの取り組みは、共有と対話の場を持ちながら、地域内外のあらゆる「ひと」の力を集めて、活動や仕事を生み出すことを大切にしています。「ひと」を起点にした実行プロセスこそが、つなプロの推進力です。

3期の策定では、このまちに暮らす人をはじめ、地域内外の個人や企業、団体で活動する人たちに向けて場を開き、そこから生まれたアイデアや提案が盛り込まれています。

まずは、あなた自身が大切に思うことやできることから、力を重ねてみませんか。

今こそ「ひとが暮らし続けられるまちの基盤」に目を向け、関わり直す

2016年につなプロが始まってから、町民の声を集めながら、取り組みを進めてきました。近年、これまで以上に生活環境への心配の声が聞こえてきています。個人だけでは解決できないような公益性の高い「まちの基盤」に対して、さまざまな立場の人々と協働しながら、暮らし続けられる環境を整えていくことに注力します。

住民の声

- ・「神山に移り住みたいけど、なかなか住める家が見つからない」
- ・「民家を紹介してもらったが、一人で暮らすには広すぎて持て余してしまう」

暮らしはじめる住居

まちに必要な住宅を確保しながら、設計や建築の過程でまちの人や資源と関わり、自然と周囲の景観にも配慮されるような整備を進めます。

- ・「沢の水が枯れてしまった」
- ・「鳥獣被害が後を絶たない」
- ・「木を伐れる人が減っていて山の手入れを頼めない」

暮らしを守る自然

自然の恵みを享受しながら暮らせるよう、流域の暮らしを支える森林や河川的环境保全に取り組みます。そのために必要な活動や仕事を創出します。

- ・「集落の人が減って、水の管理や草刈りができなくなってしまった」
- ・「移動や買い物便利になったけど、これからも続くのか心配」

暮らしの質を支える生活

生活環境を支える既存の仕組みを見直し、人的にも財政的にも成り立つ状況を目指します。世代を超えて多様な人々が参画し、学び合う機会をつくります。

そして、
これからも

「可能性が感じられるまち」の実現を目指す

人が暮らし続ける、還ってくる、移り住むことを選択するまちとは、どのようなまちでしょうか。

つなプロでは、そのようなまちを「可能性が感じられるまち」と表現しています。

現役世代も高齢者も、誰もが希望を持って暮らし、働き、健やかに生きられるまちであること。その姿を見せることが、次の世代への何よりのメッセージになると考えています。

可能性が感じられるまちとは

人がいて、いい住居があり、よい学校と教育があり、多様な働き方があって、富や資源の流出が少なく、心地よい自然があり、安心な暮らしがあり、関係が豊かで開かれている。そうした状況は、部分的な課題解決では生み出されず、要素を総合的に掛け合わせて育まれるものです。

目指したい状況をつくり出していくために、さまざまな立場の人々と協働しながら、横断的にプロジェクトを推進していきます。まずは、関心のあるプロジェクトや関わりのある領域から、参加してみてください。

「可能性が感じられるまち」の構成要素

- ・ 人がいる
- ・ いい住居がある
- ・ よい学校と教育がある
- ・ 多様な働き方がある
- ・ 富や資源が流出していない
- New!!** ・ 心地よい自然がある
- ・ 安心・安全な暮らしがある
- ・ 関係が豊かで開かれている

必要な施策領域

- 1) すまいづくり
- 2) ひとづくり
- 3) しごとづくり
- 4) 循環の仕組みづくり
- 5) 自然環境づくり
- 6) 安心な暮らしづくり
- 7) 関係づくり

好循環 この掛け算を回しながら、日々発信していく

~~~~~ 新たに「心地よい自然がある」が加わりました！ ~~~~~

3期の策定に向けて行ったワークショップ形式のつなプロ作戦会議では、自然環境の保全と回復に関する意見が多くあり、関心の高さが伺えました。私たち人間は澄んだ水や空気、豊かな土壌、多様な生き物のいる環境から、さまざまな恩恵を受けています。森・里・川・海のつながり、そして人々の暮らしとの相互作用に目を向け、その心地よさを保つことが重要であると考え、3期では「心地よい自然がある」状況を加えました。

~~~~~



まちを将来世代につなぐプロジェクトとは

町民と役場職員で構成したワーキンググループを通じて、2015年に策定された神山町の創生戦略です。策定プロセスと施策内容は、5年ごとに見直しています。

基本的な生活基盤においても、子どもたちの教育環境においても、環境保全の観点からも「神山らしさ」を享受しながら暮らし続けるために、2060年時点の人口が3,000人を下回らず、かつ1学年あたりの子どもの数が20名程度を保つ人口を目標としています。

神山町役場・神山つなぐ公社・関連する民間の事業者や個人の協働を通じて、一つひとつの施策に取り組んでいます。



3期の戦略の全文やプロジェクトの詳細は、こちらからご確認ください。



3期プロジェクト一覧

